

「平成 28 年度の献血の推進に関する計画」(案) に対する
意見募集結果について

平成 28 年 3 月
厚生労働省医薬・生活衛生局
血液対策課

「平成 28 年度の献血の推進に関する計画」(案) について、平成 28 年 2 月 5 日から平成 28 年 2 月 15 日まで御意見を募集したところ、3 名の方から御意見等をお寄せいただきました。

今般、お寄せいただいた御意見等とこれらに対する当省の考え方について、別紙のとおり取りまとめたので公表します。

今回、御意見等をお寄せいただきました方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

今後とも厚生労働行政の推進にご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

「平成28年度の献血の推進に関する計画」(案)に関する意見募集に寄せられたご意見とそれに対する考え方

○ 意見募集期間 平成28年2月5日～平成28年2月15日

○ 提出意見者数 3名

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
1	<p>献血の可否のルールの中に過去に輸血した経験があると献血は拒否されるとあります。私は17歳の時に腹膜炎で血圧が低下したため、恐らく輸血はされていると思いますが、その証拠はありません。現在、60歳のため43年前の話であり、カルテやその他の信憑性のある資料はないと思います。両親も亡くなりましたので、それを証明することは不可能な状態です。こういう状況下で、先日、献血キャンペーンにおいて献血はできないとはっきり言われました。今後も私は一切献血することは不可能だとも言われました。しかしながら、いたって健康であり、肝炎等のウイルスはノンキャリアだということは過去の検査等で証明されています。もちろん、HIVに感染するような行動は一切ありませんし、海外渡航さえも経験がありません。確かにスクリーニングは大事かもしれませんが、私の見たところでは全て口頭での確認であり、エビデンスも皆無だと思われます。医療関係者の方からの合理的な説明もないままに、何となくレッテルを貼られたような悲しい気持ちになりました。悪意のある(HIVの感染有無を調べる等)献血希望者もいる中で難しいことは承知しておりますが、是非、私のような人間にも献血ができるようなスクリーニングをご考案いただきたいと考えます。日本では年に何回も海外へ旅行している人よりも、たった1回輸血した、しかもその後43年間何も健康に問題がない人間が拒否されることに、行政の短絡的な事務的な対応という感を否めない気持ちで一杯になりました。20年前には献血できたのですが、本当に残念です。少し非難的な意見になってしまつてすみませんが、新たな検査法でより正確且つ効率的な献血システムの構築をお願い致します。</p>	<p>輸血歴、臓器移植歴のある方については、現在の検査法では検出できない未知のウイルス等の感染を完全には否定できないことから、献血をご遠慮いただいております。輸血用血液製剤にかかる安全性は、相当程度改善しましたが、未知の感染因子を完全に排除できるとまでは言いがたい状況です。このような技術の限界を踏まえ、予防的措置として献血をご遠慮いただいているものです。</p> <p>決して輸血歴等がある方が、何らかのウイルス等に感染しているとか、病気であるというわけではありませんので、何卒、ご理解下さいようお願いいたします。</p> <p>引き続き、検査方法の更なる開発や精度向上に注視しつつ、頂戴したご意見は、今後の施策の検討を行うにあたっての参考とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今後とも献血事業へのご理解・ご協力をお願いいたします。</p>
2	<p>第3節1丸数字6の内容について、若年層以外の人で、200ml献血ならよいが400ml献血はどうしてもいやだという人には、献血してもらわないようにするという意味でよいのか。</p> <p>平成27年度の計画案のパブリックコメントでは、200ml全血献血に対する方針について不明点が提出されていたにも関わらず、結果公表で単に計画の文言を載せただけという不誠実な対応であったが、疑問への説明をするべきである。</p>	<p>現在、感染症や免疫反応等リスクの低減や輸血時における抗体検査の手間等、輸血を受ける患者さんにとっても、使用者側である医療従事者にとっても利点があることから、医療機関からの400ミリリットル献血由来の赤血球製剤の需要は95%を超えているところから、</p> <p>200mL献血由来製剤のあり方については、薬事・食品衛生審議会血液事業部会献血推進調査会において、数年来、検討している他、厚生労働科学研究費において「200ml献血由来の血液製剤の安全性評価及び学校献血の推進等に関する研究」を行っているところです。今後は、当該研究成果を踏まえ、専門家の意見も聴取しつつ、200ml献血由来製剤のあり方について引き続き検討していくとともに、当該製剤の有効活用については、小児外科領域等において一定の医療ニーズがあるとの報告もあることから、こうした医療現場の実情を把握し、皆様の善意である貴重な献血血液が無為とならないよう適切に対応していきたいと考えております。</p> <p>頂戴したご意見は、今後の施策の検討を行うにあたっての参考とさせていただきます。ありがとうございます。</p> <p>今後とも献血事業へのご理解・ご協力をお願いいたします。</p>

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
3	<p>国及び事業者(日本赤十字社)は献血者確保の問題を抱えていると察するが、当方はこの問題の解決は容易に行えると考えている。どの様にしてこれが行えるのかと主張するかという点、献血後に献血者(のうち希望者)に送付される生体検査の項目追加と、これによる献血希望者の増加によってである。</p> <p>第3節1.01の「血液検査による健康管理サービスの充実」にも関わるものであるが、興味深い試みとして下記資料に目を通していただきたい。</p> <p>健康チェックしませんか? - 日本赤十字社 熊本健康管理センター (※pdf注意) https://www.kenkan.gr.jp/event/pdf/121201plus.pdf</p> <p>資料の「プラス検査キャンペーン」で検査に追加されるとある「血清鉄、UIBC、HDCコレステロール、LDLコレステロール、ヘモグロビンA1c、クレアチニン、e-GFR、尿酸」は、これらが測定結果に加わるのは健康管理に非常に有用であり、献血により16週に一度(成分献血なら2週に一度)これらを知る事が出来るようになるならば、健康を気遣い、自らの健康状態把握を心がける者による献血者数の増加は必至であると思われる。</p> <p>何せ、これらの項目が通知されるようになると、献血には、善玉及び悪玉コレステロール、現状のグリコアルブミンと合わせた病院検査レベルの糖尿病危険性の把握、腎臓状態の把握、痛風危険性の把握、という巨大な御利益が付いてくる事になるのである。これを献血するだけで行ってくれるなどあまりにも巨大な利益であり、健康を気遣う者にとって献血センターでの献血行為が「行わない手は無い」と言えるようになる程の前向きな意味を持つものになるインパクトあるものであり、献血者への利益還元著しい改善と断言出来るものである。</p> <p>また、日赤熊本健康管理センターによると、この検査項目の追加は(平成24年当時で)8mlの追加採取で行えるとの事である。平成28年現在において献血センターでの献血は、皮膚表面組織が提供用血液に混入しないよう最初に20~30ml程をパックに取ってから(初流血除去と呼ばれる)本採血過程を開始するという方式を取っており、このパックの血液採取口から陰圧のかかった試験管により採られた血液が生検用に供されるのであるが、この方式では追加の生検を行うための血液採取は非常に容易に行える(作業としては試験管を追加で1本採取口に差し込むだけである。)。更に現状ではパックから試験管に生検用血液を採っても10ml程血液が余るのが普通である様なので、追加の生検で現状より多くの血液を採取する事すら無いのではと思われる(あっても5ml程度?)。おまけに献血事業では生検は流れ作業式に行えるので費用負担はほぼ発生しないと見て良いものであり(生検用機材追加の費用は献血事業の収支改善によりすぐ償却される。)、つまり、このような検査項目追加での負担は非常に少ないと言えるのである。</p> <p>これらから、通知される検査項目の追加は、追加負担が少なく、献血者への利益還元効果が大きく、献血者数の大幅な増加が見込める費用対効果が非常に大きい、圧倒的にメリットがデメリットを上回るものなので、厚生労働省及び日本赤十字社は、献血者数の増加のためにすぐにでもこのような施策を行うべきであると言える。</p> <p>もう少し書いておくと、献血者は、古い・地元アイドルとの触れ合い・キャラクターグッズ等の金を使ったキャンペーン(一度催す諸経費で機材購入が行えたりするだろう)ではなく、地味で継続的かつ実利的なものを求めていると察する(当方もその一人である。)。挙げたようなキャラくて空虚で組織犯罪者の多く絡む業界に金を出す様な事ではなく、検査項目の追加の様な実利面での充実が恒常的な献血者数の増加をもたらすのは疑い無い。そもそも献血とは多少なりとも自己犠牲的な行為なのであり、チャラチャラした事物とは本質的に相性が悪い人間が行うのが主である。望ましくない支出で事業収支を悪化させ、その事から心を痛める国民を増やすより、健康に役立つ検査項目を増やして成人病罹患者の減少を図る方がずっと望ましい事である。</p> <p>検査項目の追加は、献血者の大幅な増加とそれによる赤十字献血事業の黒字化及び運営健全性の向上と国庫負担の軽減、また健康状態を知った献血者の体調維持の心がけによる医療費の削減により、収支面でも献血関係者全てに大きな利益をもたらすだろう。</p> <p>どう考えてもプラスしか無い改善を行わないのは行政として恥かつ罪な事であるので、直ちに行っていただきたい。</p> <p>以上であるが、当方はその効果から献血での通知検査項目の追加を心より望み求める。</p> <p>何卒前向きな検討をお願いしたい。</p>	<p>掲載したご意見は、今後の施策の検討を行うにあたっての参考とさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>今後とも献血事業へのご理解・ご協力をお願いいたします。</p>